
言語研究センター共同研究

ロシア語習得基準の研究 新しいロシア語習得基準策定のための諸問題の検討

堤 正典・小林 潔

本研究では、具体的な習得基準の検討において、既存教材の調査検討も行なっている。後者では、教材で実際に取り上げられている語彙・文法・表現の調査を行っており、そのうち語彙については、昨年度の後半以降、音声付のデータベースの作成に取り組んできた。神奈川大学のロシア語の授業で実際に使用している5種の教材から得た二千語超のデータベースを完成させることができた。このデータベースを語彙学習に用いる方法を2通り考案し、私立大学情報教育協会と日本ロシア文学会で報告した。ひとつはデータベースソフトウェアのクエリー機能（検索機能等）を用いたものであり、もうひとつは音楽ファイル管理・再生ソフト

ウェアであるApple社のi-Tunesを用いるものである。幸いにも好意的に受け入れられた。

習得基準の検討・策定については、主として欧州評議会策定のヨーロッパ言語共通参照枠を参考にして検討をすすめた。日本・中国・韓国・台湾という東アジアのいくつかの大学のロシア語専門課程ではB1レベル（ロシア語検定ТРКИの第1レベル）を卒業までの目標としている。非専攻課程のロシア語では授業数が少ないわけだが、実は1年のロシア留学を経てB1レベルに到達する学生が出ている。留学によりロシア語を集中的に学ぶことで専攻課程ではなくとも専攻課程卒業と同じ目標に到達することが可能であり、非専攻課

程としてもB1レベルをひとつの目標としても無謀ではないことが確認されている。

習得基準研究の課題としては、B1の下のA2とA1の二つのレベルに相当する学習内容をさらに検討するとともに、非専攻課程の場合は特に入門時の意欲を高めるためにもA1レベルより低い

レベル（我々は仮に「pre-A1レベル」と呼んでいる）を設定する必要があると考えている。「pre-A1レベル」の内容の確定を含め、非専攻課程にふさわしいロシア語習得基準全体の策定を急いでいる。
